

新人職員 インタビュー



藤原 啓介
施設管理部花見川処理場・電気



萩田 遥音
建設部建設課・土木

平成28年4月、下水道公社に2名の職員が新規採用されました。新社会人となった2人に、この数か月間を振り返って感想や抱負などを聞きました。

■自己紹介をお願いします。

藤原：施設管理部花見川処理場に配属された藤原啓介です。大学では下水道とはあまり関係のないIC（集積回路）などといった小さな部品の省エネ化を行っていましたが、もっと人や社会を支えるような仕事をしたいと思い、下水道公社に入社しました。

萩田：建設部建設課に配属となりました、萩田遥音です。下水道に関することは大学の講義で少し学び、下水は汚水と雨水という程度の印象しか持っていませんでしたが、先輩方の話や現場等へ行ってみると、大変な苦勞をして工事をしているということがわかりました。これからは大学での経験を活かしつつ下水道の知識を増やし日々精進していきたいと思っています。

■現在の仕事について教えてください。

藤原：花見川終末処理場及び印旛沼流域にある各ポンプ場の修繕工事において、設計や施工監理を行っています。下水道は施設の規模が大きく、また常に稼働し続けており、人々の生活を支えるものなので、大きな責任を負っていることを実感します。

萩田：先輩方が担当している現場に同行し、どのような工事を行うのか教えて頂いたり、工事の設計書を作成したりしています。最近私が担当する工事が始まったため、これからは受注者との打ち合わせや現場に行ったりすることが多くなります。

■入社してからの半年間を振り返っていかがですか。

藤原：何もかもが手探りで、分からないところを尋ねようと思ってもどこから聞けばいいのか分からないといった状態でしたが、先輩方が何かと気にかけてくれ、分からないことも丁寧に教えてもらえるので、少しずつ出来ることが増えていきました。

萩田：あっという間の半年間でした。何もかもがよく分からず手探りの状態でしたが、半年が経ちある程度慣れてきました。しかし、まだ先輩方のように仕事ができるのかと不安のほうが多いので、不安を無くしていくよう日々努力していきたいです。

■最後に一言

藤原：まだまだ分からないことは多いですが、下水道は人々が生活する上でなくてはならない事を忘れず責任を持って仕事に取り組み、県民の方々が安心して生活できるよう努力していこうと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

萩田：まだわからないことばかりで迷惑を掛けてしまうことがあるかと思いますが、公社の力になれるよう頑張りますのでご指導のほどよろしく願いいたします。



平成28年11月 第48号 発行編集 公益財団法人 千葉県下水道公社 〒261-0012 千葉市美浜区磯辺8-24-1 TEL.043-278-1631 FAX.043-277-9657



次世代を担う子供たちに対する普及啓発活動で、職員が小学校に出向いて『出張下水道教室』を行っています。反応槽から汲んでいった水をスクリーンに映し出すと、によりよると動き回る微生物を見た子供たちからは「おおー」という歓声の後にさまざまな反応が返ってきて楽しいです。「グロイ!」「キモイ!」「かわいい〜♪」

下水道に興味をもってもらい、将来は下水道の仕事についてほしいなと思いながら小学校を回っています。



表紙	終末処理場で活躍する微生物	P6	夏休み親子下水道教室(施設見学会)を開催しました。
P2~P5	「下水道研究発表会」 管渠部防食被覆材の剝離と その影響に関する事例報告	P7	「超省エネ型下水処理システム」の実証実験を行っています。
		P8	新人職員インタビュー